

平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	大分学・大分楽(Studies on Oita)		授業コード	A028103
担当教員名	池畑 義人・安田 幸夫・杉浦 嘉雄・舛田 佳弘・泉 丙完		科目ナンバリングコード	A10401
配当学年	1	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	この科目は全学科で必修科目となっています。必ず履修した上で、単位を修得してください。			
受講心得	この講義は大講義室で一齐に授業を行います。授業中は他人の迷惑にならないように、私語は厳禁です。また、資料検索以外の携帯電話の操作・居眠り・緊急時以外の途中退室なども控えてください。			
教科書	使用しません。			
参考文献及び指定図書	につぼん再発見①大分県 大分県監修(求龍堂) 大分学・大分楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(明石書店) 「大分学検定」完全対応まるごとわかる大分県 歴史・人物から文化・観光まで(明石書店)			
関連科目	森里海連環学と地球的課題、人間力概論、社会参画入門、産学一致の勧め			

授業の目的	この講義では自然、歴史、文化、まちづくりなどの切り口で、大分のことを学びます。少子高齢化が進む我が国にとって、大分の事例は様々な示唆を与えてくれます。大分のことを学び、そのことを通じて、あなたの生まれ育った場所、あなたが将来暮らすであろう地域を人々が暮らしやすくなるようにするための科目です。 この講義で学んだことを専門科目で発展させ、卒業までに皆さん1人1人の大分学・大分楽を完成させてください。
授業の概要	皆さんが4年間大学生活を送る大分は、とても魅力的なところですよ。 原生林の山々・広大な草原・サンゴのある海という大自然がある大分、そのため、美味しい水と食材に恵まれる大分。日本一の泉源数を背景にした温泉観光文化と歴史が花咲く大分、「湯の町」「昭和の町」「農家民泊の町」など、とてもユニークで面白い町と人たちが満ちあふれる大分。 大分には、私たちが知らない「宝物」がまだいっぱいあるはずですよ。 これらの宝物を、学生の皆さんが楽しみながらかつ真剣に学んでいこうというのが本講座です。さて、「大分の宝物」とは何でしょうか。 ……それは、先程の例にもあげた自然、食材、産業、文化、歴史、人などです。それらをまとめると「大分の地域資源」です。 つまり、「大分の宝物」＝「大分の地域資源」と言ってよいでしょう。 大分学・大分楽は、この「大分の宝物」に関わる、次の3つの『おおいた・がく』から成り立っています。 (1)大分の隠れた地域資源を学ぶ『おおいた・がく』⇒【大分学】 (2)大分の恵まれた地域資源を楽しむ『おおいた・がく』⇒【大分楽】 (3)大分の地域資源をより魅力的に育む『おおいた・がく』⇒【大分穫】＝地域づくり(実践大分学) 皆さんは、1コマ・1コマ、今日の『おおいた・がく』は、どれに当たるか考えながら受講して下さい。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：スタートアップセミナー(研修) 全カリキュラムの概要の解説、および全カリキュラムにおける『大分学・大分楽』の位置づけや意義などを簡単に解説する。	
第2週：『大分学・大分楽』とは？ ～オリエンテーション～ 『大分学・大分楽』を学ぶにあたって本講座の概要、および次回以降の授業後に毎回予定している「レポート課題」の説明を行う。また、その準備として「レポートの書き方」の演習も行う。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第3週：“おおいた”の自然散歩 ～自然の魅力とその楽しみ方～	

大分の自然の概要、および自然の魅力について代表的な事例をあげて解説する。また、その楽しみ方についても紹介する。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第4週：“おおいた”の文学散歩 ～名作をとおして眺める“おおいた”～ 「大分(おおいた)」の語源解説から始まり、大分の代表的な文学とそのゆかりの地、さらには、その魅力について、具体的な事例をあげて解説する。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第5週：“おおいた”のビジネス ～元気な企業と地域の活性化～ 世界経済、日本経済が厳しい状況のなか、大分の企業、なかでも地場の企業における多様な活躍ぶりを具体的な事例をあげて解説する。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第6週：“おおいた”の食文化 ～大分の食の特徴「発酵食品」～ 大分の食の特徴は、味噌、醤油はもちろん、焼酎にいたるまで発酵食品が豊かなことである。その魅力について具体的な事例をあげて解説する。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第7週：“おおいた”の海を眺める ～海釣りからみえること～ 大分の海は、釣り人にとって特に魅力的なポイントが多い。その魅力の理由とともに、だんだん環境が悪化している現状も解説する。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第8週：“おおいた”の虫から学ぶ ～昆虫を通して考える大分の自然～ 大分の自然の特徴は既に学んだが、1つの切り口から深く見ると新たな事実がわかってくる。今回は、昆虫から通した大分の自然を考える。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第9週：“おおいた”のまちづくり ～日田市の事例から～ 大分の地域づくりは多彩で全国的にも優れている事例が多い。今回は、日田市の事例紹介から、大分のまちづくりを考える。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第10週：“おおいた”の地域情報 ～GISの活用で見えてきた“おおいた”～ 大分の地域づくりに、今、最新技術のGISが活用されるようになってきた。大分県内の事例をみながら、大分のまちづくりの応用方法について考える。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第11週：最も身近な“おおいた” ～ふるさと“大在”の過去から未来まで～ ふるさと大分の中でも、私たち大学関係者にとって最も身近な大在地区。この地の過去から現在までの歴史を学び、その上で、この地域の未来や夢を探る。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第12週：“おおいた”の歴史的建造物 ～古代から近現代建築まで～ 大分の歴史的建造物を、大分県内の代表的な事例を、古代から現代まで時間順に紹介することで、大分の歴史的建造物の特徴を考える。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第13週：最も身近な“おおいた”の建造物 ～キャラハン邸の歴史から～ 大分の歴史的建造物のうち、NBUにあるキャラハン邸は最も身近な建造物といえよう。この建物の歴史や物語を紹介することで、特徴や可能性を考える。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第14週：外から見た“おおいた”の魅力とは ～都市のイメージと嗜好性～ 今まで、大分の地域資源を様々な視点から眺めてきた。今回は、大分の外の眼から眺めた「大分のイメージ」を具体的なデータに基づき紹介し、今後の課題を考える。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第15週：“おおいた”のこれからくまどめ 大分学・大分楽の講義をふり振り返りかえることで、大分の可能性や課題を再認識する。その上で受講生が自ら地域貢献できる可能性を考察させる演習も行う。	次回の講義内容に関する予習課題を出題します。
第16週：期末試験なし(※評価基準として多くのレポートを課すため)	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①大分県の特徴やその可能性に興味を持つ。

【知識・理解】	②大分県の多様な地域資源に関する基礎知識を身につける。 ③大分県の地域資源を活用した代表的な事業を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	④大分県の多様な地域資源の情報収集に関する基本的な技術を身につける。 ⑤大分県の代表的な事業の情報収集や参画方法の基本を習得する。
【思考・判断・創造】	⑥大分県の地域資源に関する知識を使って、それを活用した事業の可能性を考えることができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		25点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	20点	5点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		25点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	15点		

(「人間力」について)

※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	<p>○毎回の講義の課題による評価 講義の最後に、毎回、レポート課題(合計3点×12回)を出します。各レポート課題の評価基準は、以下のとおりです。 [3点] レポート課題の題意に対し十分な考察がなされ、要求された分量を満たしている。 [2点] レポート課題の題意を理解しているが、要求された分量に届いていない。 [1点] 要求された分量に全く届いていない。</p> <p>○最終回の講義に出題されるレポートの評価 16回目の講義で全ての講義を総括した上で、レポート課題を出題します。このレポートの評価基準は以下のとおりです。 [40点] レポート課題の題意を理解し、十分な考察がなされている。 [35点] レポート課題の題意を理解し、考察がなされている。 [30点] レポート課題の題意を理解している。 [20点] レポート課題で要求された分量を満たしている。</p>

発表・その他 (無形成果)	
------------------	--